

令和5年度 広島県病害虫発生予察情報 技術情報第1号

令和5年8月24日（木）発表 広島県西部農業技術指導所

～ねぎ、ニラ等のねぎ属作物 ネギハモグリバエB系統の発生に注意～

露地ねぎ栽培ほ場で、ネギハモグリバエB系統とみられる葉の食害が発生し、多くの葉の白化・枯死がみられています。

ネギハモグリバエが寄生するねぎ、ニラ等のほ場では発生に注意し、B系統の発生が疑われる場合には、速やかに防除を行いましょう。

発生概況について

- (1) 令和4年8月、県南東部の露地ねぎ栽培において、本県で未発生のネギハモグリバエB系統の発生を確認し、「令和4年度病害虫発生予察情報 特殊報第3号」を発表しています。同年9月には、県中東部の露地ねぎ栽培ほ場でも、ネギハモグリバエB系統とみられる葉の食害の発生を確認しました。
- (2) 令和5年6月以降、県中西部（東広島市）の露地ねぎ栽培ほ場で、ネギハモグリバエB系統とみられる葉の食害が発生し、8月には多くの葉の白化・枯死がみられました（写真1）。同年8月までの被害面積は、約6.0haとなっています。



写真1 ネギハモグリバエB系統による葉の枯死・白化

生態および被害について

- (1) 幼虫はうじ虫状で、成長すると約4mmに達します（写真2）。蛹は約3mmで褐色、俵型です（写真3）。成虫は約2mmで、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色です（写真4）。虫体の外部形態によるA系統との識別は困難です。両系統ともに、成虫は葉の組織内に産卵し、ふ化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害します。成長すると葉から脱出し、地表又は土中で蛹になります。



写真2 ネギハモグリバエの幼虫



写真3 葉肉から脱出した蛹



写真4 ねぎ葉上の成虫

- (2) B系統による被害は、複数の幼虫が近接して葉肉を摂食し、白い筋状の穿孔を作り、特に葉先の白化・枯死（写真5）により生葉数が減少するなど、従来のA系統（写真6）とは異なります。



写真5 B系統の食害により白化したねぎ



写真6 A系統の食害を受けたねぎ

防除対策について

- (1) 虫体の外部形態によりA系統とは見分けがつかないので、ほ場での被害が激しい場合には、B系統であることを想定して、速やかに防除を行ってください。
- (2) 多発すると防除が困難になることから、発生初期の防除を徹底しましょう。
- (3) 本種の防除には、ネギハモグリバエまたはハモグリバエ類に登録のある薬剤を使用しましょう。
- (4) 薬剤によっては中老齢幼虫に対する効果が劣る場合があるため、若齢期の薬剤防除に努めましょう。
- (5) ねぎは薬液の付着しにくい作物なので、薬液散布時に展着剤を加用し、付着性を高めてください。
- (6) 定植時には、育苗トレイかん注、または粒剤を施用しましょう。
- (7) 抵抗性害虫出現防止のため、同一系統薬剤（IRACコードが同じ剤）の連用は避けてください。
- (8) 被害葉および収穫終了後の茎葉は発生源となるため、ほ場には放置せず、土中に埋設するか、ビニール等で被覆し、適正に処分してください。

● お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151
東広島市八本松町原 6869
TEL：082-420-9662（直通）



ひろしま病害虫情報

検索



ひろしま病害虫情報

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>)